

○ 委員長報告

12月定例会本会議で報告された総務企画国体委員長報告は、以下のとおりです。

平成29年12月定例会

総務企画国体委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、職員の給与に関する条例等の改正についてであります。

このことについて一部の委員から、鳥インフルエンザなど動物の病気への対応は重要であり、県職員獣医師の確保のため、処遇改善が課題であるが、初任給調整手当の増額改定の状況はどうか。

また、県職員獣医師の人材確保対策の実施状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回の改定は、人事委員会から人材確保の観点で初任給調整手当の増額が報告されたことから、他県の状況を踏まえて、来年4月から5万円に引き上げる条例改正を提案したところである。

また、県職員獣医師の確保対策については、インターンシップ生の受け入れや全国の獣医系大学への働きかけなどを行い、受験者確保に努めているほか、働きやすい職場環境づくりについても、保健福祉部や農林水産部とも連携しながら取り組んでいる旨の答弁がありました。

第2点は、東京オリンピックの合宿誘致の進捗状況についてであります。

このことについて一部の委員から、2020年の東京オリンピック合宿誘致の状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、砥部町とともにマレーシアのバドミントンを、また、松山市とともに台湾の野球をターゲットとして誘致活動に取り組んでいる。

このうち、マレーシアについては、現地での知事のトップセールスやジュニア世代の相互交流のほか、今月、同国のバドミントン協会会長が来県し、知事との面談や競技施設の視察を行ったところであり、今後とも、誘致に向けて協議を加速させたい。

台湾については、知事と松山市長が台湾を訪れ、現地の野球関係者と意見交換を行うとともに、えひめ国体開催に合わせ中華民国棒球協会理事長を招請し、競技施設等の視察を行うなど積極的に働きかけている。

また、新居浜市のウェイトリフティングなど、一部の市町における誘致に向けた動きについても、しっかりサポートしていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、えひめ国体・えひめ大会のレガシーの継承についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ国体・えひめ大会のレガシーを、スポーツ立県えひめの実現に向け、どう生かしていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、えひめ国体・えひめ大会のレガシーには、施設や競技会運営のノウハウなどがあり、今後、さまざまなスポーツ大会や合宿の誘致等に生かせる。

また、スポーツに対する機運の盛り上がりもレガシーの1つであり、今後の国体等でも良い成績を残し、その姿を県民が応援することや、優れた指導者の確保・養成、社会人チーム等の支援に取り組むことで、スポーツの裾野拡大を進めていきたい。

多くの県民がスポーツを楽しむ、選手たちを応援する、支援するといったことで盛り上がれば、スポーツ立県につながると考えている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・職員の育児休業等に関する条例の改正
- ・投票機会の確保等
- ・ラグビーワールドカップのキャンプ地誘致
- ・みきゃんを有効活用した情報発信
- ・えひめ国体・えひめ大会における募金や企業協賛の状況等

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願1件については、願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。